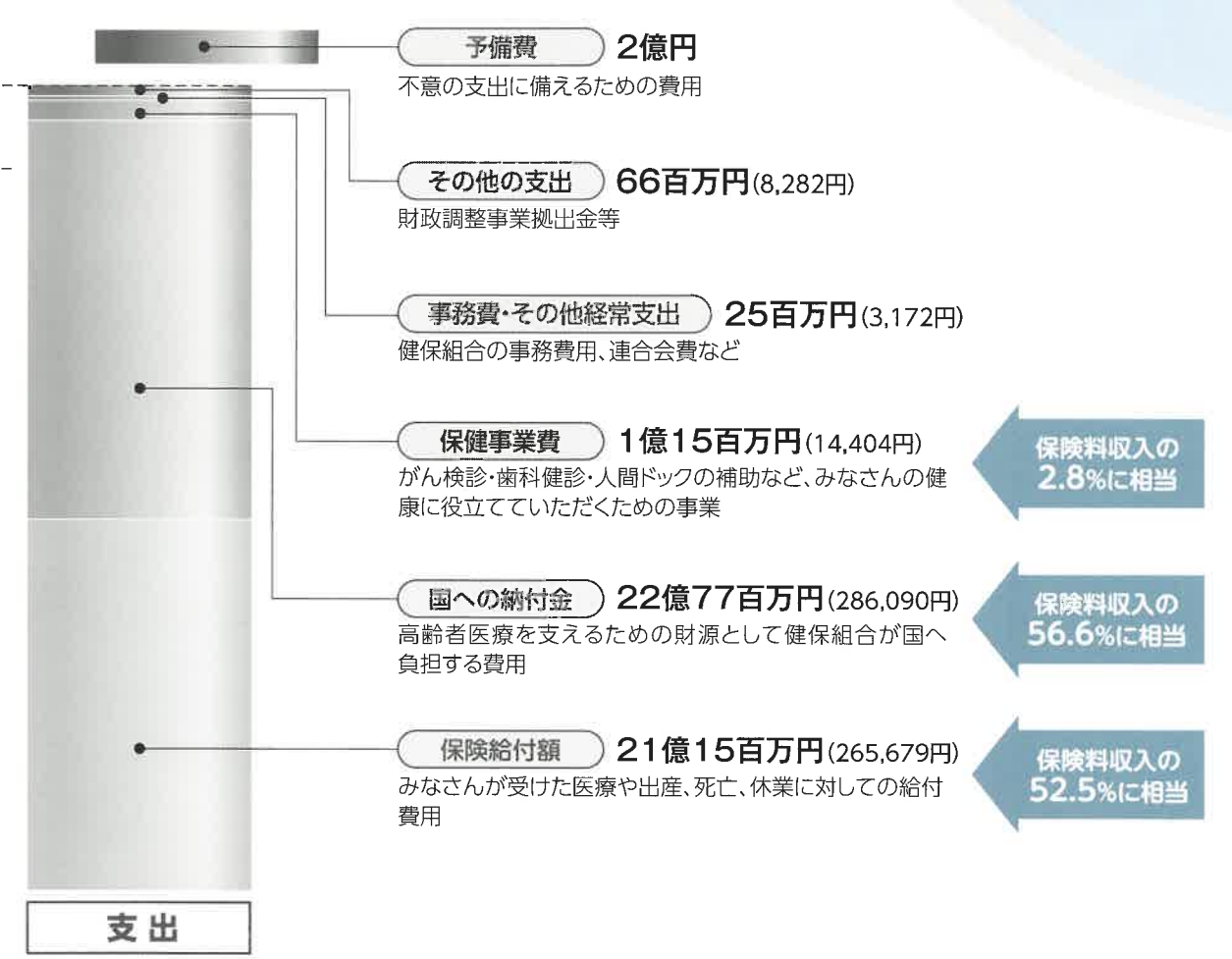
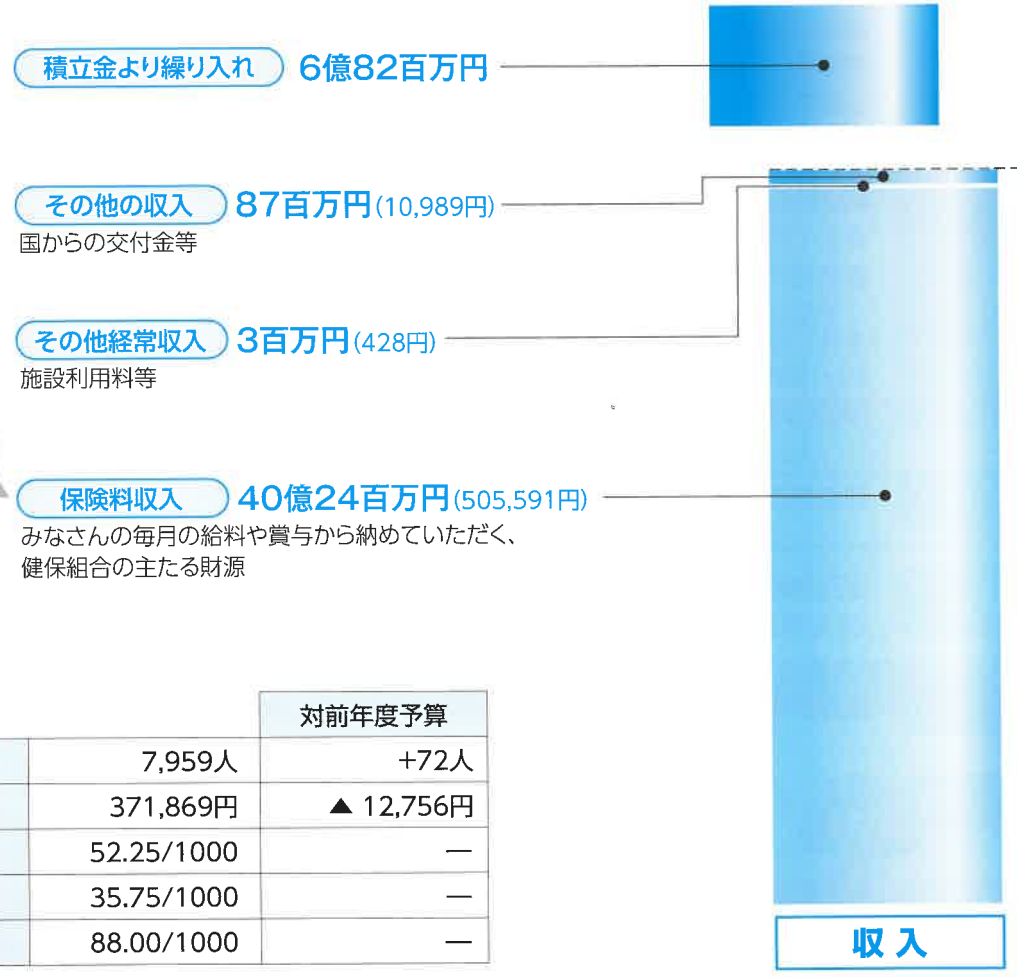


保険料収入減少、納付金負担増加で 大幅な赤字予算に

※()内は1人あたり額。

予算総額 **47億97百万円**

収支差引額
▲4億82百万円
(▲60,619円)



予算基礎数値

		対前年度予算	
被保険者数		7,959人	+72人
平均標準報酬月額		371,869円	▲12,756円
保険料率	事業主	52.25/1000	—
	被保険者	35.75/1000	—
	合計	88.00/1000	—

令和3年度予算 ● 介護保険

予算基礎数値

徴収対象 40歳以上(第2号被保険者)人数		4,208人
平均標準報酬月額		418,056円
保険料率	事業主	8.75/1000
	被保険者	8.75/1000
	合計	17.50/1000

収入	
介護保険収入	4億7,900万円
その他の収入	100万円
合計	4億8,000万円

支出	
介護納付金	4億7,510万円
その他の支出	550万円
合計	4億8,060万円

準備金より繰り入れ	60万円
-----------	------

予算のポイント

◆保険料率は前年度と同じ8.8%

みなさんと会社からいただく保険料収入は、保険料率を前年度と同率とし、前年度比2.7%減の40億24百万円を見込みました。

◆保険給付費は前年度比3.2%増

みなさんへの保険給付費は、被保険者数の増加を見込み、前年度比3.2%増の21億15百万円を見込みました。

◆納付金は前年度比4.8%増

国への納付金は65歳以上75歳未満の医療費を支える前期高齢者納付金が前年度比12.3%増加し、全体で4.8%増の22億77百万円を見込みました。

◆コロナ禍は健保財政にも影響

昨年から新型コロナウイルスの感染拡大は健保財政にも影響を及ぼしており、全国の健保組合では保険料収入の急減により非常に厳しい財政状況に追い込まれています。健保連発表の健保組合財政影響の試算結果によりますと、2020年度当初予算時に比べ、平均標準報酬月額で4.0%減、平均標準賞与額では12.9%減になると見込まれています。健保組合では目前に迫る「2022年危機以前にコロナ禍の影響による深刻な財政危機が到来すると予測しており、財政が逼迫した健保組合に対する緊急的な財政支援が求められるところです。」